

高校2年生  
2. 各論 I

「命どう宝」～人権を考える～  
— 『「沖縄戦」～ある母の記録～』にみる心の問題—

三 島 徹・加 藤 容 子

**【抄録】** 高総合人間科の学習を通じてどのような学びを期待するのか。学年テーマのもと、プレ研究・事前研究と進め、沖縄研究旅行を終えてひと通りの成功を見たが、これらの体験からより発展的な問題への「気づき」を求めて、また知識と知識の統合の可能性への「気づき」、「学ぶこと」と「生きること」の連結への「気づき」を求めて、国語と保健の合科を試みた。

**【キーワード】** 沖縄戦・疎開と避難・肉親の死・極限状態・心の傷・人権・時代と人間・知識と知識の統合

### 1 はじめに

本研究は、高校2年生を対象とした総合人間科の学習テーマ『平和を学ぶ—広げよう「沖縄の心」—』のうち、「命どう宝—人権を考える—」グループを対象として実施された、チームティーチングによる国語と保健の合科の試みである。

高校2年生を対象とした総合人間科の中心的テーマは「平和」と「人権」にあると言える。その具体的な取り組みとして年間の学習展開を工夫する際、学年団を中心とした指導体制をとる以上は、学年団として配当された教員の特性を考慮せざるを得ない。したがって、学年団全体として、年間の指導計画を検討すると共に、指導を担当する教員間の組み合わせのあり方をも考慮する過程で、当該グループは国語と保健の担当教員をもって、「沖縄」から「心」を学び、学習者により発展的な学びを求めべくスタートした。

#### ① 学習テーマ設定への経過

プレ研究（1学期）から沖縄研究旅行に向けての事前研究（2学期）に至るまでは、学年全体として、それぞれ研究テーマ別グループ毎の研究テーマに即して研究を進め、相互に報告し合うなどをして沖縄理解につとめた。

この間にも、研究旅行後の合科的取り組みとしてどのように展開すべきかについては大いに迷い、とりわけ、国語科としての切り口と保健としての切り口をいかに結合させ、帰着させるかについてさまざまな検討がなされた。

#### i 合科の条件

合科について検討する際の条件は以下の通りである。

第1に、沖縄をベースとすること。

第2に、国語科の見地から、「読む・書く・聞く・話す・味わう」などの領域にあてはまること。

第3に、保健的立場から、「心と体の健康」という見地に立つこと。

#### ii 合科の接点の検討

以上のような条件を設定し、いくつかの接点を探るべく検討を重ねた。その接点として挙げられたものを以下に列挙する。

・沖縄の古典と沖縄の心

「おもろそうし」などを軸に沖縄の心を探る。

・古典の中に現れた沖縄の記述にみる沖縄の心  
近世の資料などを中心に、沖縄の記述を見つけだし、沖縄の心を探る。

・小説と沖縄の心

小説作品に表れた沖縄の姿から沖縄の心を読み探る。

・保健的データから沖縄の心を探る

長寿の土地柄として知られる沖縄の保健的データをから生活と心につながるものを読みとり、論文やスピーチの形にまとめる。

以上のような例を検討したが、いずれも国語と保健という両教科のバランスを欠き、また、対象生徒自身が沖縄研究旅行で体験・実感してくるものとの若干の溝を感じた。

#### iii 学習テーマの絞り込み

そこで、生徒たちがプレ研究や事前研究で調べの

対象としていた内容にできるだけ即したものを模索することとなり、結果的に「沖縄戦」とそこに翻弄された人々の「心の問題」を中心としたサブテーマを設定することとした。

ここに至り、研究旅行に臨んで鑑賞した映画「ガマ～月桃の花～」の原作を中心に、戦火という極限状態における「人間の心」を探り、そこから平和の尊さ、人権の大切さ、さらにはこれからの時代を生きる生徒諸君の生き方を模索する糸口をつかむことができないのかという大まかな計画が浮かんできた。

また、社会的に「トラウマ」という言葉が口にするようになり、生徒自身も時折口にするようになっていたことから、外傷性心的障害という観点からの沖縄戦の理解は、比較的取り組みやすい土壌が養われつつあると判断した。

以上のような経過により、研究旅行後の中心的取り組みとして、本テーマを設定することとした。

## ② 学習テーマと設定理由

学習テーマ

「命どう宝」～人権を考える～  
- 『「沖縄戦」～ある母の記録～』

にみる心の問題-

設定理由

プレ研究・事前研究・研究旅行を通じて得た知識と体験とを、改めて整理し組み立てなおす中で、より発展的な問題への「気づき」をはかることを目標とする。この点、担当する教師の教科が「保健」と「国語」であることから、この担当教科の特性を活用した助言や指導が可能であること、さらに、学習の入り口として学習者自身が取り組みやすいものを選んだ。また、より発展的な問題への「気づき」は、知識と知識の統合の可能性への「気づき」であり、「学ぶこと」と「生きること」の連結への「気づき」と成り得るものとして設定した。

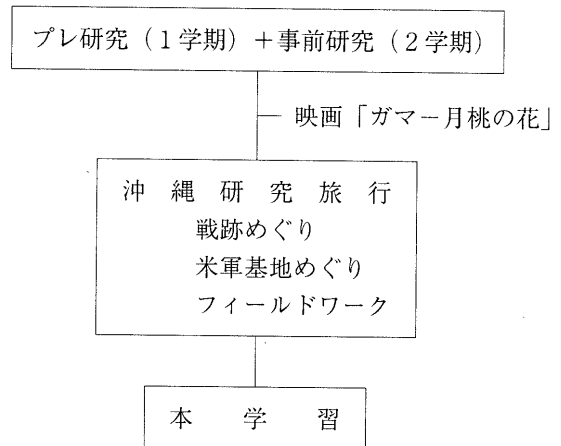
基本教材「沖縄戦～ある母の記録～」は、著者である安里要江氏の講演を研究旅行で聴いていること、また、このテキストが原作となった映画「ガマ～月桃の花～」を事前学習の中で鑑賞していることなど、沖縄研究旅行に関わる様々な印象の中でも最も心に残っている材料といえる。

## 2 指導計画の立案と実際

本研究は、従来展開してきた総合人間科学習の上に、さらに複合的に試みられるものである。したがって、従来の目標や展開の骨子を維持しつつ本研究を試みるとすれば、沖縄研究旅行以降に展開される5回の総合

人間科の時間ということになる。したがって、この限られた中での試みとなった。

### ① 全体の流れ



### ② 本学習の流れ

#### i 1回目 ガイダンスと資料配付

(チームティーチングによる)

本時は冬休み直前であり、沖縄研究旅行そのものまどめを終了しつつある時期と重なる。長期休業を挟んでの実質的取り組みは困難な面があることから、本試みのガイダンスと関係資料の配付に留めた。

ガイダンスにおいては、本学習の目的とおおよその流れ、教員の関わりと生徒自身の取り組みの指針を伝えた。配付する資料については休業中に熟読し、心の問題に関連する表現の部分に、各自でアンダーラインを入れ、整理しておくよう指示した。また、自由な観点をもって読みとることができるよう、説明は敢えて抽象性を保ち、具体性をもった説明によって観念が固定化しないよう留意した。

資料配付は、映画「ガマ～月桃の花～」の原作である「沖縄戦～ある母の記録～」を中心とし、著者である安里氏の許可を得てその大部分（原本の第2章部分）を複写プリントして配布し、グループ全員で綴じる作業をした。

また、次時の参考資料とするために、「心の傷」に関する簡単なアンケート調査を行った。アンケートの内容は、「心の傷」と聞いてイメージすることや自分自身で心に傷が残ったと感じている体験、現代社会での事件などに心の傷に関するものはないか、などである。

- ii 2回目
- 前半：保健的見地からの授業  
指導者 加藤 (保健担当)
  - 後半：国語的見地からの授業  
指導者 三島 (国語担当)

冬休み後の授業である。前半の保健的見地からの授業では、特に沖縄の問題にこだわらず、「心と保健衛生」という観点から、前時でのアンケート結果を踏まえ、「心の傷」を切り口に生徒自身の体験や現代社会での事件の例などを挙げて概説した。これらの取り組みは、沖縄戦にまつわる心の問題を扱うにあたって、生徒自身が、単に沖縄戦という非日常的、歴史的過去の問題として実感を伴わない事項として流してしまうことを避け、自らの体験や身近な問題と深く関連しているという意識を保持させる上で重要な取り組みであったと考える。

後半の国語的見地からの授業では、冬休み前に指示した「沖縄戦～ある母の記録～」の複写プリントの読みとりを話題に、生徒の感想や生徒が読みとってきた心の問題に関わる表現の部分をいくつか指摘させた。また、読みとりの方向性のある程度方向付けるために、資料1（「安里さんたちが語るもの」）を配付し、その後、前半で学習した保健的見地を踏まえて解析した資料2（「『沖縄戦～ある母の記録～』から読みとれるもの」）を配付し、分析の妥当性を討論した後、さらに詳しく分析すべく各班に別れ、班毎に担当したい項目を検討させた。班毎の担当項目が決定した後、さらに資料3（「『沖縄戦～ある母の記録～』から読みとれるもの そして現代社会への手がかり」）を配布し、次時への指針とした。

### iii 3回目 班学習（チームティーチング）

前2回の授業を踏まえ、班毎に担当した項目について、資料を具体的に読みとり、関連項目について抜き書きを作成させた。抜き書きは便宜をはかって抜き書き用のカード（資料4）を配布したが、その使用方法や分担などは班毎に相談して運用することを勧めた。多くの班は、各人の担当する部分を細分化し、まずは関連表現の抜き書きに取り掛かり、それを互いに見せ合って不足などを指摘しつつ進めていたようである。表現を抜き出した後は、抜き出しカードをいろいろに配列しながらそれぞれの関係を整理し、班毎の担当項目に関連する表現を整理していった。又、このような作業の中で気付いた事柄や、補足して調査すべき事柄をまとめ、次時までの調べの分担を確認した。

指導者は、班活動中の教室を巡りつつ、生徒からの質問や相談を随時受けた。この間、さまざまな質問や相談があり、その中には多くの貴重な発見やアイデアがあっただけでなく、学ぶことが多かった。

### iv 4回目 班学習（チームティーチング）

前時の作業と分担を踏まえ、各班毎に発表に向け

での準備作業に取り組んだ。

各班は、発表の要旨・発表方法・発表の分担などを確認し合い、B紙・色画用紙などを用いてプレゼンテーション用の道具作りに励んだ。また、準備と並行して、発表用原稿の整理や紹介する写真の整理・確認など、班員を挙げて奔走していた。

指導者は、生徒が必要とするプレゼンテーションのための資料を準備するなど、この時間に至っては取り立てた助言も必要となくなっていた。

### iv 5回目 発表とまとめ 公開授業

（チームティーチング）

本学習の最終時である。公開授業ということもあり、生徒は緊張の極限に達していた様子であったが、プレゼンテーションということについては、日ごろの活動として比較的慣れていることもあり、予定された発表内容をそれぞれにこなすことができた様子である。しかし、発表毎に求めた質問や意見に応じる余裕はなく、教員からの発問にも、緊張のあまり意味が飲み込めないという状態であった。普段ならば、ウイットに富んだ切り返しで場を盛り上げさせる生徒も、多くの参観者を前に、日ごろのユーモアも顔を出す余裕がなかったようである。このように、緊張のままに時間が過ぎていったおもむきはあるが、当初期待していた沖縄戦を通して現代社会に生きるものとして何を学かという点については、十分に言及された発表となっていたと考える。

## 3 考察 評価と今後の課題

### ① 評価

本研究の主題は、「生きる力」を身につける上での「総合力」の養成とその検証にあると考える。この点においては、沖縄を中心とした平和・人権の学習という大テーマのもと、プレ研究・事前研究で沖縄を理解し、研究旅行で沖縄を体験した生徒が、国語と保健という観点からそれまでの「知識」や「イメージ」を再構成し、沖縄戦における「心の傷」という新たな課題を糸口にして改めて「人権」を考え直し、さらには現代に生きる自分という身近な問題に着眼して、将来のあるべき「生き方」を模索するという本試みは、一応の成果を見たと考える。

また、学習課程における生徒個人間の取り組みや班毎の協力体制、グループとしての一貫性の保持努力など、活動を通して身につけた事柄も大きな成果であったといえる。

授業後の生徒の評価についても、以下の通りである。

### i 生徒の評価

公開授業当日に配布し、回収した活動報告書にて、以下のような生徒の評価を得た。

#### ア 発表メモと相互評価

各班の発表についての生徒のメモと各項目の評価である。メモについては集約羅列した。評価については、5段階（1：よくない～3：ふつう～5：とてもよい）で相互に評価した結果の実数をあげた。

#### 時代と人間（A 2班）

##### 〔発表〕

###### 読みとりの要旨

- ・戦争中、日本人には刷り込みによる心理操作があった。内在的差別意識。米兵への恐怖。捕虜になることへの恐怖。

###### 現代・将来に関する考察

- ・現代にも刷り込みによる心理操作や流言飛語があり、これからも人々は惑わされ続けるだろう。
- 例、マインドコントロール、うわさ。

##### 〔意見・感想〕

- ・戦争中の刷り込み等をうまく現代につなげていると思った。
- ・人のうわさの影響は社会にとっても大きい作用を及ぼすと思った。
- ・自分で言った一言でも世の中を動かしているのだと思う。自分の言葉に責任を持ちたい。
- ・流れがしっかりしていてわかりやすかった。

##### 〔評価〕

###### 発表の分かりやすさ

(1 : 0、2 : 3、3 : 4、4 : 16、5 : 7)

###### 表現の工夫

(1 : 0、2 : 0、3 : 10、4 : 14、5 : 6)

###### 考察の内容

(1 : 0、2 : 4、3 : 8、4 : 13、5 : 5)

###### 協力体制

(1 : 0、2 : 1、3 : 8、4 : 11、5 : 10)

###### 総合評価

(1 : 0、2 : 0、3 : 11、4 : 13、5 : 6)

#### 疎開と避難（A 5班）

##### 〔発表〕

###### 読みとりの要旨

- ・安里さんたちはなぜ疎開しなかったのか。3つの理由。対馬丸撃沈、沖縄に戦争は来ないだろう、財産があった。

- ・人間の心理行動。

###### 現代・将来に関する考察

- ・今、デマが流れたら信じるか。
- ・現代との接点は、深いと思った。

##### 〔意見・感想〕

- ・戦争当時の人々は、何を信じたらよいのかもわからないくらい極限状態であった。
- ・戦争中の安里さんは、強い心をもっていたのだなあ。
- ・発表方法がよかった。
- ・よくまとめられていた。
- ・わかりやすかった。

##### 〔評価〕

###### 発表の分かりやすさ

(1 : 0、2 : 0、3 : 5、4 : 14、5 : 14)

###### 表現の工夫

(1 : 0、2 : 1、3 : 3、4 : 10、5 : 19)

###### 考察の内容

(1 : 2、2 : 0、3 : 9、4 : 11、5 : 11)

###### 協力体制

(1 : 0、2 : 1、3 : 6、4 : 17、5 : 9)

###### 総合評価

(1 : 0、2 : 1、3 : 4、4 : 13、5 : 15)

#### 日本兵との関係（C 3班）

##### 〔発表〕

###### 読みとりの要旨

- ・激戦前と後の日本兵と沖縄住民の関係。
- ・人間が極限状態に陥ると、その人の心に二面性があらわれる。その場合、負の心が勝ってしまうことが非常に多い。

###### 現代・将来に関する考察

- ・沖縄戦でのいじめから今現代の事件に結びつけている。
- ・新潟少女監禁事件…母親の子供を守りたいという面と社会に反していると思う面。
- ・いじめ…したくなくてもいじめっ子たちと同じ。
- ・責任のすりかえ。
- ・自己を抑制して強くなる。

##### 〔意見・感想〕

- ・自分に強くなることだけでは問題は解決できないと思う。
- ・周りの状況を変えることをみんなで考えるべきだと思う。
- ・自己を抑制し自分に強くなるということは、いい言葉だと思った。自分にも必要なことだ。
- ・いじめの問題は解決が難しい。口では何とでも言えるけれど。
- ・心の傷は誰にもあるのだから、他の人の立場

とかを考えて行動できたらいいと思った。

- ・内容は難しかったが、よくできた。
- ・わかりやすかった。
- ・難しかった。

〔評価〕

発表の分かりやすさ

(1 : 0、2 : 1、3 : 2、4 : 17、5 : 11)

表現の工夫

(1 : 0、2 : 0、3 : 9、4 : 16、5 : 6)

考察の内容

(1 : 0、2 : 1、3 : 9、4 : 12、5 : 9)

協力体制

(1 : 0、2 : 1、3 : 8、4 : 13、5 : 9)

総合評価

(1 : 0、2 : 0、3 : 8、4 : 14、5 : 9)

子供との死別 (A 6 班)

〔発表〕

読みとりの要旨

- ・戦時中の極限状態の中で親族との死別は生き残った者にとって想像を絶する悲しみやストレスであった。
- ・親子の愛
- ・安里さんの子供を思う気持ち。
- ・親族の心のつながりは強い。

現代・将来に関する考察

- ・戦時中には親子同士の愛情の強さはとても大きいですが、現在には様々な問題が親子間で起こっている。
- ・幼児虐待 ・育児放棄
- ・戦争中のような状況では親子の絆が深くなる。また、戦争がおこっても困るので、平和な世の中にも深い親子の愛があってほしい。
- ・もっと親子で接する機会を持とう。
- ・もっと親子の絆がないといけない。

〔意見・感想〕

- ・安里さんのストレスがどんなものか知ることができた。
- ・現在の母親の子に対する気持ちはどうなっているのだろうと思った。
- ・現代と戦争での親子関係が違うのは、少し悲しい気がしました。親子なんだから仲良くして欲しいと思った。
- ・安里さんの子供への気持ちが強かったからこそ子供も母を大切にしようと思った。
- ・現代への持っていく方がとてもよかった。
- ・最後のまとめがすごく良かったと思う。

〔評価〕

発表の分かりやすさ

(1 : 0、2 : 1、3 : 6、4 : 13、5 : 12)

表現の工夫

(1 : 0、2 : 1、3 : 6、4 : 18、5 : 7)

考察の内容

(1 : 0、2 : 0、3 : 6、4 : 11、5 : 14)

協力体制

(1 : 0、2 : 3、3 : 9、4 : 14、5 : 6)

総合評価

(1 : 0、2 : 0、3 : 6、4 : 15、5 : 11)

戦場彷徨 (B 3 班)

〔発表〕

読みとりの要旨

- ・戦場などであまりの不満や孤独のため極限状態に陥ると人格や倫理観が失われていく。
- ・極限状態＝情報不足・物質不足・肉親を失う  
→自分が保てない→人がするから自分も。現代の日本も同じ。

現代・将来に関する考察

- ・現代人の心はすさんでいる。
- ・マスコミは大げさ。
- ・戦中肉体的な崩壊だったのが、現代では精神的な面で崩壊となっている。自分たちが社会を作っていることを意識し、人と関わりあって視野を広げよう。
- ・情報を自分で見極める。
- ・自己の確立。

〔意見・感想〕

- ・自分に自信を持とうと思った。
- ・難しい内容だった。
- ・確かに今の世の中は、「死」に対する考えが戦時中と違う。
- ・ゲームの進化で殺人などがとても身近なものになってしまいうなど危険なことだと思う。
- ・自分で判断しなければならなかった。
- ・今の日本社会は人の関わりが少ないので、今だからできる人との関わりをもってほしい。自分ももっと持つようにしたいと思った。
- ・例がわかりやすかった。
- ・発表の工夫はなかったが、内容はとてもよかった。

〔評価〕

発表の分かりやすさ

(1 : 0、2 : 2、3 : 11、4 : 9、5 : 6)

表現の工夫

(1:2, 2:16, 3:7, 4:7, 5:3)  
考察の内容

(1:0, 2:0, 3:8, 4:7, 5:13)  
協力体制

(1:0, 2:3, 3:11, 4:8, 5:6)  
総合評価

(1:0, 2:0, 3:12, 4:9, 5:7)

### 極限状態 (C2班)

#### 〔発表〕

##### 読みとりの要旨

- ・戦争中での極限状態(生への気力喪失、善悪の区別がなくなる)。
- ・人が生命の危機にさらされたとき、冷静さを失い的確な判断ができなくなり、そこから極限状態に陥る。

##### 現代・将来に関する考察

- ・現代の人にも極限状態から精神的に病んでしまう人がある。
- ・現代の人にも極限状態と隣り合わせである。
- ・事故・火事・東海村臨界事故

##### 〔意見・感想〕

- ・自分が想像もつかない場面に出くわしたとき、自分が冷静でいられるかどうかはなってみないとわからない。
- ・現代の極限状態は、死とあまり関係はなく、自分に対することだと思った。
- ・今の日本社会で精一杯その時その時を生きていこうという気持ちを持つ人が独りでも増えるといいと思う。
- ・生きるというテーマに落ち着くのがとてもよかった。
- ・発表のやり方が良かった。
- ・工夫してあった(B紙)。

##### 〔評価〕

##### 発表の分かりやすさ

(1:0, 2:0, 3:4, 4:12, 5:14)

##### 表現の工夫

(1:0, 2:0, 3:0, 4:7, 5:23)

##### 考察の内容

(1:0, 2:1, 3:5, 4:17, 5:6)

##### 協力体制

(1:0, 2:0, 3:1, 4:15, 5:14)

##### 総合評価

(1:0, 2:0, 3:1, 4:14, 5:15)

### イ 生徒たちが感じたこと

報告書の中で、各班の発表を踏まえ、授業全体の

まとめに向けてメモをとらせた。それを羅列列挙する。

a 現代・将来にかかわる私たちの心の「問題」についてキーワードとなる言葉を抜き出してみよう。

極限状態、親子の接触、絆、人の二面性、フラッシュバック、幼児虐待、事故、ストレス、自己抑制、差別、責任問題のすり替え、自分を持つ、自己中心的考え、「心」のスタイル、刷り込みによる心理操作、情報化社会、人との関わり、人の目、いっばいいいばいの人がいっばいだからいろんな問題がいっばいでてくる、感情を社会から守る、社会を感情から守る、死、殺人、精神的にまいっている、他者との接触の薄さ・ . . .

b 現代における「心の傷」の例を考えてみよう。ペットの死、いじめ、家庭内暴力、トラウマ、ストレス、恐怖、暴行、少年犯罪、孤独、精神的ショック、幼児虐待、痴漢、監禁、差別、人間不信、事件事故の犠牲になる、ひったくり、体罰、どもり、いいこちゃん、アダルトチルドレン・ . . .

c 私たちの「あり方」について考えてみよう。(個人として・社会の一員として)

- ・社会がダメだと考え、あきらめるのではなく、社会は人間がいるから成り立っているのだから一人一人が自分を精神的に高めていくことが必要。
- ・自己中心的な考え方を捨て、社会を形成していかなければいけない。
- ・人に流されず、噂などに左右されない強い人になる。そして人の心に傷をつくらぬ人になる。
- ・自分自身を見つめなおし、他人、社会との関係をもう一度考えたい。
- ・目標を持ち、自分でしっかり判断できるようになる。
- ・一日一日を大切に生活していき、先につながる行動をしていきたい。
- ・自分に自信を持ち、たくさんの方に触れて徐々に強い心を身に付けていく。
- ・前向きに考える。
- ・心を広く。

- ・自分をしっかり持つ。
- ・自己を抑制し、自分に強くなる。
- ・助け合う気持ち。
- ・自分をきちんと持ち、社会との交流もきちんとしていかななくてはならない。
- ・自分を持ちながらも、価値の違うものも受け入れる。
- ・人種やいろいろなことについての差別をなくす。

ウ この学習についての全体評価

今回の授業全体(全5回)について、自己への評価と全体に対する評価をさせた。

〔自己評価〕

班の一員として協力できたか?

(1:2、2:3、3:7、4:4、5:18)

準備・発表など積極的に出来たか?

(1:2、2:4、3:5、4:6、5:17)

学習活動を十分に理解出来たか?

(1:3、2:2、3:8、4:13、5:8)

この学習によって自分なりの考えが持てたか?

(1:1、2:2、3:3、4:17、5:11)

自己の学習活動全体を振り返っての評価

(1:2、2:1、3:8、4:14、5:9)

〔全体評価〕

国語の手法で保健衛生の学習を試みたことは?

(1:0、2:2、3:6、4:15、5:9)

「沖繩」から「心の傷」を探るといふ試みは?

(1:0、2:1、3:5、4:10、5:16)

今回のような学習活動について意見・感想を…

- ・はじめは、ほくらの班のテーマと少し違う気がして気が進まなかったが、発表の準備をしていくうちにいろんな意見がでてきた。当日みんなのいろんな意見が聞けて充実した。
- ・班の協力は大切だと思った。
- ・難しくてやりずらかった。
- ・なるほどと思うことが、結構あった。
- ・みんないい考えを発表してくれた。
- ・考えれば考えるほど難しいと思った。
- ・最初は大変そうだったのでいかにわからなかったけれど、考えていくととても身近なところにつながっていることが多く、大切だと思った。もっと時間を取って取り組めば、さらに良いものになると思う。
- ・戦争による心の傷。思ってもいないことがた

くさんあったと気づいた。

- ・自分の考えや知識を再認識させられてよかった。
- ・深刻な問題ばかりで大変だった。自分がいかに無知なのか思い知らされた。
- ・他の人たちの発表も自分たちの準備もよくわからないまま進んでいったという感じ。やはり研究旅行のときのテーマで発表したかった。
- ・学習活動についてわかりやすく説明して欲しい。
- ・こういう事をするなら、4月からこういうことをしたかった。

② 今後の課題

総合人間科におけるチームティーチングと合科の可能性について、本研究を踏まえての今後の問題をまとめる。

i 指導者の体制について

総合人間科におけるチームティーチングそのものは、具体的に複数の指導者によって指導するという以前に、本校の必修総合人間科においては、原則として学年団がその学年テーマに沿って生徒を幾つかのグループに分けて指導するという点において、既にある種のチームティーチングが成立していると言える。ここに合科という視点が入ると、従来の教科の枠を超えた総合学習、言い換えれば、教科の枠にとらわれない総合的学習の指導という概念は取り外される。かえって、教科の枠の中で、チームを組む指導者の教科との重なりをどう求めるか、しかも学年のテーマと生徒のニーズという点をも重ね合わせるとき、結果的に取り組むことのできる幅が狭められかねない面があることを否めない。この点については、学年団の編成という、学校運営そのものと総合学習の展開とをリンクさせた考え方も必要となる。あるいは可能であれば、指導者の組織を学年団という枠をはずして、学年のテーマに見合う教科の指導者を充当するということも考えられる。しかし、いずれにしても教科における選択幅の拡大など、指導者側の負担増が懸念される現実もあり、また、本校においては選択総合人間科との絡みもあって、容易には解決しない問題であると思われる。

ii テーマの設定と生徒のニーズについて

大量生産、大量消費社会の末路の中にあり、連帯や社会を意識する暇もなく成長する世代である生徒たちにとって、本校の総合人間科におけるテーマを

追求させ、体験させることは、それ自体大いに意義のあることと言える。しかしそれだけに、生徒の生活実感に伴いにくいテーマをいかに伴わせるかが難しいところで、ともすれば単なる道徳的・訓話的結末に陥りかねない恐れをも持ち合わせている。その意味でも、「教材開発」的検討がさらに必要であると思われる。

### iii 他教科との連携について

本研究のような複数科目の乗り入れによる学習に限らず、総合人間科の学習にはさまざまな学習の内容が活用されるべきである。たとえば、フィールドワークにあたっては、訪問先とのアポイントの取り方の上で、電話や面接での正しい話し方や依頼状・礼状など手紙の正しい書き方などは国語の表現の領域であろうし、いただいた資料の中のグラフや表の読みとりは数学や理科の領域であろう。また、沖縄戦の背景となる歴史的事項については社会科の領域であるし、インターネットを利用した検索や調査は、情報教育の領域と言える。これらのさまざまな領域での知識が実践される場であることをより意識し、各教科科目の指導計画と連携した総合人間科の指導計画が一層明確化されるならば、基礎基本の繰り返し学習に積み上げる実践応用の場としてより意義のあるものとなるのではないだろうか。とりわけ、併設型中高一貫校として歩み始める本校においては、学校全体としての対象生徒の幅が広いという点が、かえって計画的な「生きる力」の養成を可能にさせるものと思われる。

資料1 安里さんたちが語るもの

資料2 『「沖縄戦」～ある母の記録～』から読みとれるもの

資料3 『「沖縄戦」～ある母の記録～』から読みとれるもの、そして現代社会への手がかり

資料4 表現抜き出しカード

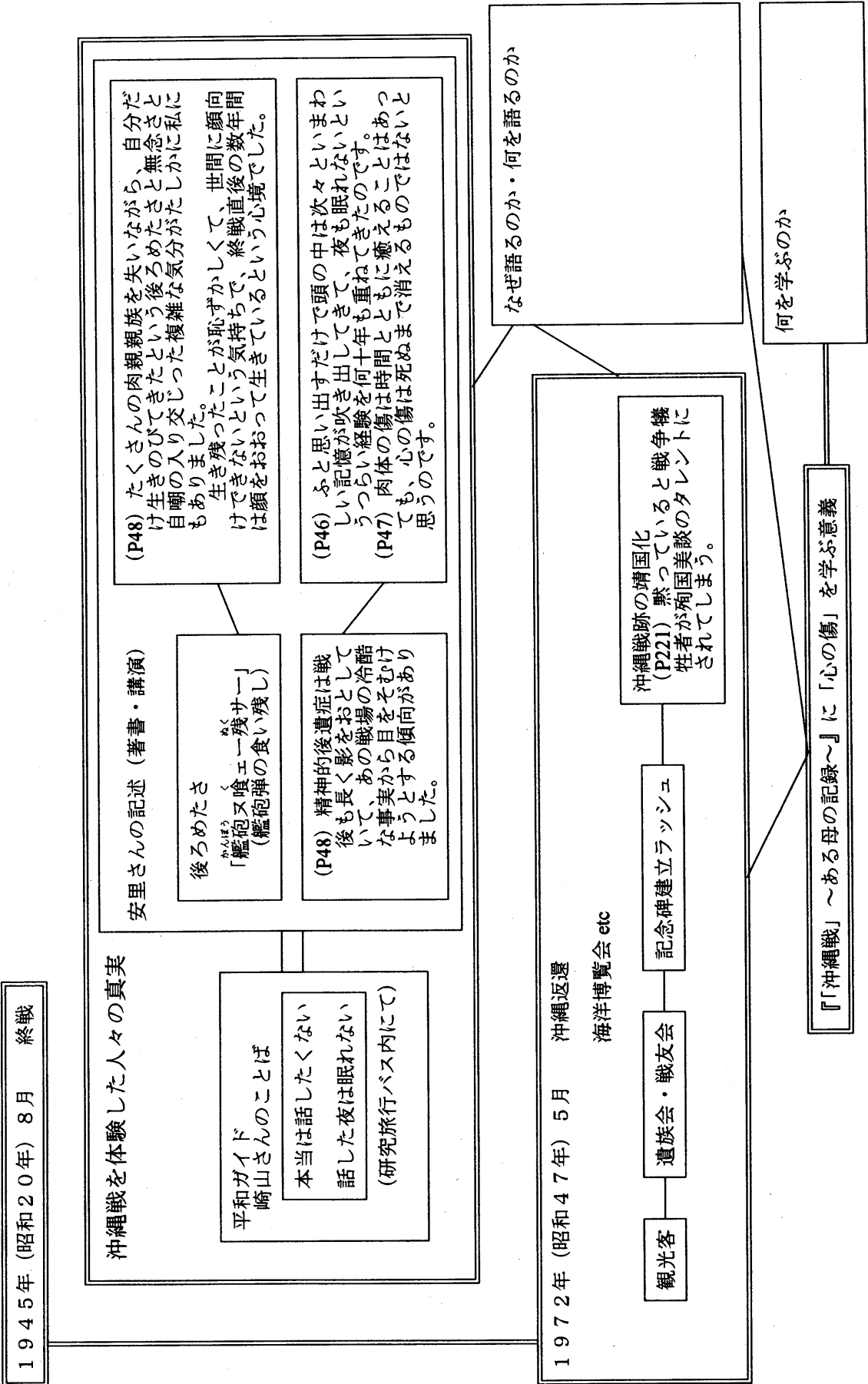
資料5 活動報告書（例）

資料6 班活動中のメモ（例）



資料1

安里さんたちが語るもの? ~学習の足がかりとして~



資料 2

『「沖繩戦」～ある母の記録～』から読み取れるもの

II 母と子の戦場(目次)	① 時代と人間	② 疎開と避難	③ 日本兵との関係	④ 子供との死別	⑤ 戦場彷徨	⑥ 極限状態
1 沖繩忌						
2 沖繩アンマー	母の姿 変化する生活様式					
3 戦争の足音	父のいない生活 学校、時高講演会					
4 戦時下の新婚生活						
5 津島丸撃沈 と十・十空襲		疎開しない背景	兵隊との交流			
6 艦砲の轟き		疎開の延期	兵隊との交流			
7 米軍上陸						
8 戦火を逃れ、南へ				出ない母乳	戦場彷徨の有様	
9 死の彷徨			日本兵の所業	出ない母乳	戦場彷徨の有様 ウトおばあ、宣秀おいの死	極限状態下の心
10 洞窟の中	捕虜になる恐怖			和子の死 壕の中の子供たち		食料より安住
11 収容所での 再会と死別	米軍への不信			宣秀の死	夫の死 ウシおばあ不明	半狂乱の行動
12 ゼロからの再出発	帰郷拒否					
	内在する差別 教育・情報	住民諸共の沖繩戦 沖繩戦の実体推移	軍と住民の関係 軍の対住民視	母親としての心	失われる肉親 その状況と心理	極限の心理と行動 食、食料調達法

『「沖繩戦」～ある母の記録～』から読み取れるもの そして現代社会への手掛かり

	読み取れるもの	現代社会への手掛かり
① 時代と人間	安里さんの生き方に影響を与えた母の姿 安里さんの学生生活と戦争 時局講演会 捕虜になる事への意識・恐怖 戦後の帰郷のためらい 疎開しなかつた理由 安里さんたちの理由 住民一般の理由 ※沖繩戦の実体と推移	マインドコントロール・刷り込みによる心理操作・誘導 ウワサ、流言飛語
② 疎開と避難		先入観 情報に左右される心理と行動
③ 日本兵との関係	米軍上陸前の交流 米軍上陸後の兵隊の態度の変化 米軍は住民をどう見ていたのか 日本兵士としての態度の変化 ※沖繩戦展開にあたっての軍と住民の関係	個人の立場と集団の立場 内在的差別意識 問題（責任）のすり替え
④ 子供との死別	和子の死 宣秀の死 その状況と母親としての心の傷 ※母性とは何か 保健的見地からの母性	母性 生と性
⑤ 戦場彷徨	失っていく肉親 誰が、どんな状況下で、その時の思いは	喪失感の中の心理と行動
⑥ 極限状態	極限下の心理と行動 戦火の中の心理と行動 壕の中で発狂する人々 食料調達の実体	極限状況・パニック状態における心理と行動 ウワサ、流言飛語

資料 4

『「沖縄戦」～ある母の記録～』 表現抜き出しカード

項目名	頁	行目
		記入者氏名

『「沖縄戦」～ある母の記録～』 表現抜き出しカード

項目名	頁	行目
		記入者氏名

『「沖縄戦」～ある母の記録～』 表現抜き出しカード

項目名	頁	行目
		記入者氏名

『「沖縄戦」～ある母の記録～』 表現抜き出しカード

項目名	頁	行目
		記入者氏名

総合人間科「命どう宝」 活動報告書

2000. 2. 6 提出用

	組	班	氏名	
4 発表準備作業 (次時) の班内での担当分担				
氏名				分 担 内 容
5 次の時間までに自分がやっておくこと				
4 次の時間に自分が準備するもの				
自己評価 (⑤はよくできた ④はいくよくできた ③はやよくできた ②どうにかできた ①あまりできなかった) 1 準備を忘れずにやっできたか ⑤...④...③...②...①... 2 自分の分担任をきちんとできたか ⑤...④...③...②...①... 3 班活動にきちんと参加できたか ⑤...④...③...②...①... 4 メモなど適宜取ることができたか ⑤...④...③...②...①... 5 全体として積極的に参加できたか ⑤...④...③...②...①...				
意見・連絡欄				

2/6の活動計画

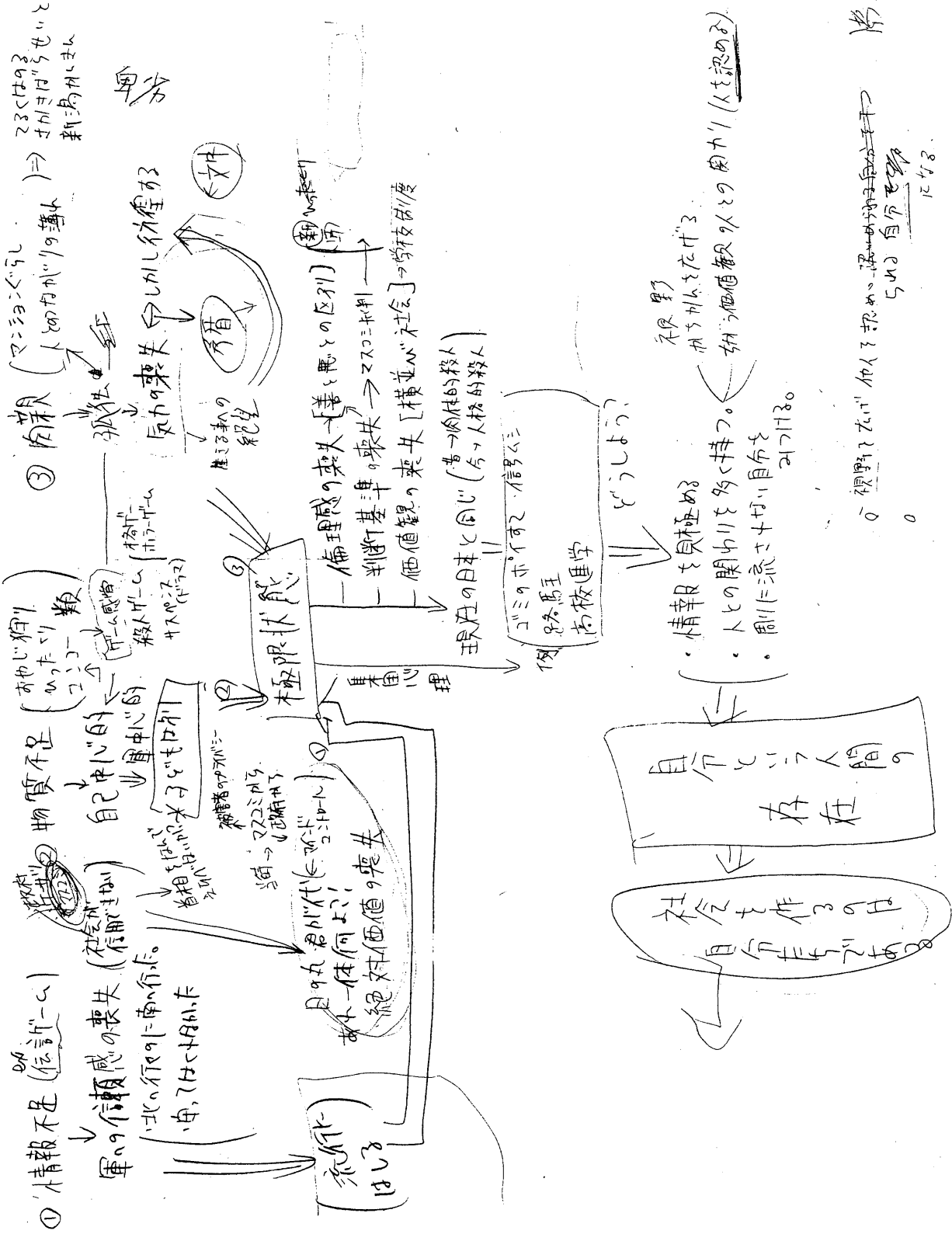
- 1 前回の分担任にしたがっての班活動
  - ①班内での分担任を確認
  - ②テキストから関連する表現を抜き書きする。(抜き出しカードへ)
  - ③テキスト以外での資料で補強資料を探す。(抜き書きできないものは付箋にメモして貼る)
- 2 分担任した項目 (班) から考えられる現代の問題について班で検討する。
 

<メモ>
- 3 以上の内容をまとめ 発表は5～7分程度でポイント (発表することを前提に、手順・方法なども考慮しつつ...)
 

<メモ>

班討論メモ

長



視野が広がらない。他人を認め、認められる。それによって自分を受け入れる。